

第2回 伏見区基本計画策定委員会 摘録

日時：平成21年12月1日（火）

午前10時～12時

場所：深草総合庁舎4階第3会議室

1 開会

伏見区長：第1回目の委員会では委員の皆様方から伏見区の現状と課題、地域での人づくり、絆づくりが重要といったご指摘をいただき、大変有意義な会議だった。本日は計画の骨格部分のご審議をお願いしたい。

前回いただいた、計画には若者の視点が大切であるとのことを受け、今回はゲストスピーカーとして龍谷大学の学生さんからまちづくりに関わったご経験等をお話いただく。基本計画に若者の考えを反映させる大きなヒントが得られるのではないかと期待している。

区民待望の伏見区総合新庁舎がいよいよ来年1月9日より開所の運びとなった。私を含め、職員一同新庁舎が新しい時代の象徴として、基本計画に沿ったものとなるよう懸命の努力をさせていただいたので、活発なご審議をよろしく願いしたい。

座長：基本計画策定の会議は今年度全3回、本日で2回目だが、今日は基本的な枠組み、構成、方針について決定するためのご意見をいただきたい。次回には原案を見ていただくことになる。今日はかなり大事な委員会と考えているのでよろしく願いしたい。

2 議題

(1) 第1回委員会の意見の総括

- ・事務局より資料1（第1回委員会の意見概要）の説明

座長：今、特に意見がなければ、後ほど意見交換の際にでも併せていただきたい。

(2) 幅広い世代の意見の反映方法について

- ・事務局より資料2（区民意見募集（アンケート）について）、資料3（意見募集用紙）説明

委員：このアンケートの配布方法はどうするのか。配って回るのか。

事務局：11月16日から区役所・支所の入口付近にコーナーを設け実施している。ホームページでも受け付けている。12月15日号の市民しんぶん伏見区版『きらり伏見』でも意見募集の広報をしていく予定だ。中学校、高等学校、大学等にも直接依頼することを考えている。できるだけ広く実施したい。

委員：アンケートの締め切りはいつか。

事務局：第3回策定委員会の日程を考慮し、平成22年1月末までを予定しているが、基本的には最終的に案がまとまる時期まで続けたい。

委員 : 観光協会や工業会, 商店街関係などへも配るなどしたらどうか。

伏見区長 : ご指摘を踏まえアンケートの依頼方法等を考えたい。

委員 : 中学生, 高校生, 大学生を対象と見た場合, アンケートの質問内容が少し難しいのではないかと。すぐに書けるような内容ではない気がする。

伏見区長 : 小学生も考えたが難しいかもしれないと思い, 中学生からを対象にした。わかりやすいよう創意工夫したい。

委員 : 小学校も5, 6年になれば答えてくれるのではないかと思う。
このアンケートは今まで活動しているような熱心な人向けに思える。一般の、あまり関心がないような人からの意見もいただけるとありがたい。

委員 : 砂川学区では, 龍谷大学の先生方と福祉をテーマに多世代交流の催しを行い, 意見をもらっている。意見を出すこと自体に意味があるので, そのような方法もある。

伏見区長 : アンケートの内容, 回答方法など再考したい。

座長 : 時間が限られているが, 可能な範囲で多様な意見を聞くことを願います。アンケート結果は次回提示する素案に一部反映される可能性もあるので, 了解いただきたい。

・ゲストスピーチ「まちづくりボランティアの活動をとおして感じたこと・得られたこと」

学生1 : 今までまちづくりボランティア活動を通して感じたこと, 得られたことを発表させていただく。2人とも京都出身ではないが, 京都に住んでみて改めていいまちだと感じ, まちづくりにも興味をもった。

京都をもっと知りたい, 学校外の多くの人と話をしたい, いろいろな活動に参加して有意義な時間の使い方をしたいという思いから活動を始め, 現在は西本願寺門前町を中心としたまちづくりプロジェクトを進めている。

西本願寺門前町では, 住民の皆さんにまちづくりに関心をもってもらい, 子どもたちに自分たちのまちの伝統産業を楽しんで知ってもらおう機会をつくるお手伝いをしている。龍谷大学の自主活動支援事業にも採択されている。

活動内容としては, 門前町にある植柳小学校児童との門前町の散策や, 植柳小学校が統廃合で閉校されるため, 記念事業としての校内写生会・展示会の手伝い, 写生した絵を使った伝統産業である京うちわの製作, 黒谷和紙の職人さんの指導の下に和紙の手漉き体験などを行った。これは卒業証書になる予定だ。

その他, 西本願寺の盆踊りや, 年末のすす払いの手伝い, 門前町で毎月16日行われている清掃活動への参加, 本願寺展が行われた際のアンケート調査を行っている。

伏見では, 伏見大手筋商店街のアンケート調査の実施, まちづく交流パビリオンでの展示, 区民ボランティアとしての伏見 eco 市への参加, 伏見稲荷周辺の商店街での観光客やお店の方々へのアンケート調査を行った。現在, 龍谷大学の目の前にある砂川小学校の子どもたちに協力してもらい, 伏見稲荷クイズラリーを行うことや, 伏見の歴史マップ作成も計画している。

今までボランティア活動に参加して, 地域の実情がわからない, 大学のカレン

ダーが地域と合わないため、活動の話を詰める時間が少ない、他大学の活動の傾向がわからない、資金集めが必要といったことを感じた。

西本願寺門前町と伏見区とを比べると、伏見区は面積が大きく、時間の流れが早いと感じる。また西本願寺と門前町のつながりは非常に深く感じられるが、伏見稲荷大社では地域とのつながりがどのようにあるのかがよくわからず、気になる点だ。

まちづくりビジョンとして、西本願寺門前町では、西本願寺に頼らないまちづくり、伝統産業（仏壇・仏具）を生かしたまちづくりが計画されている。京都駅との連携がもっとあれば、観光客も増えるのではないか。伏見は大きな区なので、どういうビジョンで始めたらいいか意見を出しにくい。伏見稲荷大社や世界遺産を生かすといった方向性になるのではないか。

大学生の視点から見て、伏見区は有名な伏見稲荷大社があるが、その周辺の商店街のにぎわいが少なく感じる。商店街で行ったアンケートでも観光客の減少という意見が多数あった。住んでいる方の歴史を大事にする気持ちは非常に感じるが、地域以外の方にそれを知ってもらう機会が少ないのではないか。

これまでの活動を通して、子どもたちに京都の伝統産業や、自分たちのまちに興味をもってもらい、楽しんでもらうことが大切だと考える。自分の家族以外の大人たちと関わる機会をつくってあげれば関心をもってもらいやすく、次の世代のまちづくりにつながっていくのではないか。京都はいいところがたくさんあり、まちづくりを考える方も大勢おられるので、これからいいほうに進んでいくと思っている。私たちもできることは精一杯させていただき頑張りたい。

座長 : ただいまの発表に対してご質問、コメント等をお願いしたい。

深草担当区長 : お話を聞いて非常に嬉しく感じた。深草支所でも大学生の方に協力していただくことがあるが、学生さんがどうすれば参加しやすくなるのか、こんなツールがあればいいということがあれば教えていただきたい。

学生 1 : 学生同士の連携が大事だと思う。ただ、手続き的なことがよくわかっていない。自分たちもやりたいことをどう伝えたらいいのか調べたい。

委員 : まちづくり活動で資金集めが必要ということだが、どうしたらいいとお考えなのか。

学生 1 : 今は学校からの自主活動支援事業で補助金が出ている。京都市の学まちコラボ事業にも応募して認定され、その補助金も受けている。周りの方に評価していただきバックアップしてもらおう形での資金集めを考えている。

委員 : 大学生は地元のことがわからないとのことだったが、私たちも大学生のことを知らない。以前、学生ボランティアが少年補導キャンプ等の活動に来ていたが今は途切れている。もっと協力関係ができればいいと考えているが、そういった窓口を教えてほしい。

委員 : 龍谷大学ではボランティアNPO活動センターが設立されており、ボランティア活動の支援をしている。そこを訪ねてもらってはどうか。

委員 : 伏見稲荷大社は地域とのつながりがあまり感じられないとのことだったが、どのような点でそう思われたのか。

学生1 :ゼミの活動で伏見稲荷大社を見学させてもらったことがあるが、その際、伏見稲荷大社に清掃の申し出をしたところ受け入れてもらえなかった。あまり地域に開かれているように感じられなかった。

学生2 :伏見稲荷大社の周辺商店街を対象に行ったアンケート調査でも、商店街の方も伏見稲荷大社とのつながりはあまりないという意見が多かった。

委員 :周辺の商店街は私の子ども時代からすると、ずいぶん寂れてきたと感じる。

委員 :学生さんが地域に来られても、地元の側にうまくコーディネートする人がいないため、活動をしていてもあまり身になっていないのではないかと。30歳代、40歳代でそういうまちづくりリーダーがいないと感じる。

自分たちが住んでいるまちが、今から10年先を考えたときにこのままでいいのかどうか。中心市街地のほうで一部のメンバーと、例えば10年先に紅葉の名所をどこかでつukれないかなという話をしている。そのような夢物語を考える場所、環境がない。そうした場があれば学生の方も勉強になることが多いと思う。

稲荷大社は信仰であって観光ではないと考えているのに、地元の深草稲荷保勝会が観光でまちづくりをしようとしても合わない。それをうまくまとめる人がいないと感じている。

委員 :大人は窓口づくりをすることが大事だ。今のご指摘はしっかりしろというお言葉かと思うので、私たちもしっかりやりたい。

(3) 伏見区基本計画の構成、基本方針について

- ・事務局より資料4（伏見区基本計画の基本構成イメージ（案））、資料5（伏見区基本計画の骨子にかかる将来像と取組方針）の説明

3 自由意見交換

座長 :10年前の計画では「ひらく」がキーワードだったが、今回は「すむ」をキーワードにしたいというのが事務局案だ。

資料4の全体の構成と、伏見区の目標「伏見ですむ 水と緑と温もりのまち伏見で住みます・働きます・楽しみます」に関してご意見を頂戴したい。将来像についても、5本柱でいいのかどうか、この文言でいいのかご意見をいただきたい。

また、取組方針はこれで網羅できているかどうかとか、伏見ならではの部分を強調すべきとかもあればお願いしたい。10年後の伏見はどうかという点と、当面2、3年でやるべきことと両方について考えなければならないが、今回は10年後の伏見がどうか、その計画の目標と、当然なすべきもの、あるいは伏見において強調すべき点があればご指摘いただきたい。

委員 :観光や商業の話はたくさん出ているが、工業についてはあまりふれられていない。高度集積地区という名前も今らくなん進都に変わり、工業集積もあまり進んでいないが、その点は10年間の計画のなかで伏見区としてどのようにお考えなのか聞かせていただきたい。

事務局 :取組方針の1つ「らくなん進都の創造型産業のまちづくり」のなかに工業というものを読み込むつもりでいた。言葉として「工業」が出てこないという点については、ご意見をうかがいながら再度検討させていただきたい。

- 座長 : まずは、工業の事業所数が減少していることをどう考えるかだろう。
- 委員 : 「すむ」ということはいいテーマだが、どう実現するかは大きな課題だ。水と緑で考えると、向島はずっと水との戦いでよく水害が起こっていた。天ヶ瀬ダムができて以降はほとんどないが、安全対策はどのようになされていくのか。大きな緑地があり、農産物の生産は多いが、その行く末は知らない。もっとわれわれが農業に身近に接することができる地産地消型の流通を考えなければならない。30年前は宇治川の周囲にサイエンスタウンの計画があったが今は頓挫しており、農地が乱開発されてしまうのではないかという懸念がある。向島の西は田んぼで、東のニュータウン側との結びつきがぜんぜんできていない。商業施設も多少あるが、住居ばかりで「まち」という形になっていない。
そのようなアンバランスなところをどう再生していくのか。地域に住んでいる者だけでなく、京都市、伏見区という大きな視点で向島地域をどう活性化し、まちづくりをしていくのかという計画を作成していただきたい。
- 委員 : 新政権になってダム事業を見直すといっているが、天ヶ瀬ダムの事業は進んでいる。関連して宇治川、淀川にかけての河川改修、堤防の強化工事も始まっている。向島、淀地域にかけての河川地域は近畿でも有数の野鳥の宝庫で、ツバメの巣立つ時期は見学者も非常に多い。阪神高速8号京都線が開通して野鳥が減ったと聞いているが、河川改修で水と緑が削られて野鳥がさらに減るのではないかとこの危惧をもっている。
- 委員 : 伏見区は陸の孤島のような地域が点在している。東西方向に環境にやさしい、斬新な交通網ができればと思う。
- 委員 : 現在の基本計画では「ふれあいと温もりのある、健康的でいきいきと暮らせるまち」という言葉があるが、それはこの資料のなかでどの部分に入るのか。
- 事務局 : その部分については現計画で3つの項目があり、そのなかで「地域コミュニティの充実」の項目と、今回の将来像(4)で「地域の福祉力をつむぎ、育むまち」のところがつながると思う。
- 委員 : 健康で生き生きと暮らしたいというのが私たちのいちばんの願いだと考える。基本計画のなかにそういった言葉を入れていただきたい。生きにくさ、働きにくさ、健康不安や食の不安を抱えている方は多い。それを受け止めて暮らしを支える言葉、「安心してすこやかに暮らせる」とか「元気な人が増える」などの言葉も取組方針のなかに入れていただきたい。
- 委員 : 将来像(2)と(3)に「自然と歴史がいきづく魅力を発信するまち」「伏見力を活かし、新しい京都を創造するまち」とある。5つの観光協会からの100万円と市からの100万円で、観光マップの作成など京都に来る観光客の方に伏見を知ってもらうための取組をしたが、20年度で終わった。取組は継続が大切だ。10年続けられるような活動ができて、伏見の宣伝ができればと思う。
各種団体はそれぞれ性格が異なるが、みんなが協力することが大事だ。伏見力、人間力、行動力の3本柱で、世界遺産の醍醐寺も生かして頑張れば、伏見がもっと活性化できるのではないかと、そういう面も考えていただきたい。
- 委員 : 京都市のなかで伏見がどういう役割をはたしていくのかを考える必要がある。これまで伏見にはゴミの処理施設等がつくられてきたが、そうしたイメージを今

回の計画では変えていこうというメッセージが表れるようにするべきだ。

今後、京都が都市間競争に勝ち残っていくには北部の発展は望めないで、南部の伏見をめぐるあたりが発展しないと京都は発展しない、伏見は京都のなかで重要な牽引役になるまちだということが伝わるような、基本計画がいいと考える。

座長 : 重要なお指摘だ。伏見区が京都市のなかで何を担っていくのか、宇治などの周辺市町村との関係で伏見はどういうまちなのか。将来像(3)の「伏見力を活かし、新しい京都を創造するまち」、(1)「循環型社会の要を担うまち」のあたりに、伏見がこれからの京都を担うといった思いが多少出ているが、まだ弱い。

委員 : 京都市のビジョンとどう整合していくかを教えていただきたい。

将来像として非常に美しい言葉で書かれているが、CO₂削減の話だけを見ても10年後に25%減は達成できないと考える。夢は大事だが夢物語ではなく、できないなら具体的にこういう対応で進めるといった表現が必要。

「環境にやさしい」の「やさしい」という言葉はやめてほしい。今のライフスタイルを見直してCO₂削減に努めるというような表現がある。例えば公共交通を整備するというのではなくてみんなバスに乗ろうとか。醍醐で先進的にされているコミュニティバスの利用を推進しようとか、伏見には京セラなど環境に対して先端的な対応をされている企業がかなりあるので、エコな産業を育てるということ表現してみるなど、具体的な施策を挙げたほうがいい。押さえるべきところは押さえるということが全体に必要なではないか。

座長 : あまりにも楽観的なところは書きぶりをどう考えるのかということだ。「環境にやさしい」というのはやめてはどうか。

委員 : 向島ニュータウンに住んでいるが、近くの京都文教大学や種智院大学、京都すばる高校の学生さんが向島駅を利用されている。これまでは素通りだったが、「向島駅前まちづくり憲章」を駅に掲げたところ、文教大学の学生さんのほうからまちづくりに協力しようという提案をいただき、3年ほど前から一緒に取り組んでいる。学生が地域の夏祭りに参加したり、われわれが学園祭や学生が取り組んでいる地域との交流会に参加したりして、かなりいい関係ができてきた。向島駅前「春の祭典」という新たなイベントも始まった。

ただ、関心をもってくれている4年経つとつなぎになる人が卒業してしまうので、事業が立ち消えてしまうという危険性はある。

向島駅に集まる若い人を駅前の活性化につなげようという意図があるので、4つ目の柱「地域福祉・コミュニティ」の取組方針に、大学と住民、地域とのつながりをもっと強力で推し進めていけるようなことがあるといいのだが。

座長 : 大学と地域の連携をもう少し具体的に書き込んではどうか。

伏見区長 : お話を聞いて実際に向島でも動き出していると感じる。地産地消については、先週久我・久我の杜・羽束師地域で朝市が開催されたが、向島でも向島農協に話をして一歩が踏み出せればと思う。

宇治川の野鳥のお話があったが、あの地域の環境は大変重要と考えている。東西の道路整備も共通の話題として基本計画に謳っていききたい。

継続は力なりという言葉があるとおおり、活動を継続して検証していくようにしたい。京都のなかでの伏見の位置として、南の玄関口だとよくいわれるが、伏見は玄関口ではなくて座敷だと考え、「伏見ここにあり」というような意気込みで基本計画を策定していきたい。

環境に関する文言についてはご指導いただきたいが、計画としては夢も書いて

いきたいと考える。

委員 : 伏見は多様な地区に分かれて、観光、工業、商業、農業とそれぞれ問題があり、基本計画の策定も他の行政区と違って非常に難しいと感じる。そのなかで、「ふれあいプラザ」が全地域でできたことは大きな成果だ。

新しく総合庁舎ができ、皆さんをはじめ行政職員の方々のやる気にも期待しているし、私たちも努力していかなければならない。やはり共汗という考え方が重要だ。基本計画策定については、皆さんと共に汗をかいて、努力しながら進めたい。

委員 : 伏見の魅力の1つとして、他の地域と比べ子どもたちが住みやすい環境があると感じている。次の世代のことを考えると、子どもたちのためのプロジェクトがあるといい。30～40歳代の大人の積極的な参加が少ないのは、子ども時代にまちについて知る機会が少なかったということがある。子どもたちが伏見を好きになってもらうことで、人づくりが積み重なっていく。その意味で、「育むまち」のところは「人を育む」とするとあとのことが全部生きてくるのではないか。

醍醐寺も含め、観光施設も子どもたち、人づくりのために活用していただきたい。ぜひ人を育てる魅力のあるまちということをアピールするものを計画に盛り込んでほしい。

委員 : 食というテーマが取りあげられていないのは寂しく感じる。京都市の未来まちづくりプランのなかでは、社会全体で取り組む「食」の環境づくりを積極的に進めるという案が出されている。食育は子どもたちの育成や、農業や商業ともつながるキーワードになると思われるので盛り込んでほしい。

座長 : ほかにもご意見があるだろうが、意見用紙を使って事務局までファックス、郵送等で送っていただきたい。

目標の「伏見ですむ」というキーワードに関してはとくに反論はなく、ご了解いただいたということで目標の言葉はこれをベースにさせていただく。将来像の5本柱に関しては、「人を育む」「健康」「すこやか」といったキーワードが出た。文言は考えさせていただくが、5本柱もご了解を得られたと考える。個別の具体的な提案は、取組方針等に反映させていきたい。私と事務局で次回に向けてそのあたりを整理した案を出させていただく。

次回の委員会は2月下旬から3月はじめを予定している。取組、重点戦略、融合プロジェクトも含めた全体の素案についてご意見を頂戴したい。それを反映させたものをパブリック・コメントにかけていくという予定だ。

この計画は京都市、伏見区だけではなく、区民みんなで進めていくことを前提とした計画だ。区民全体の決意表明をここに書いていると理解している。行政になんとかしてくれというのではなく、われわれ自身が伏見で住んで、働いて楽しむのだということを大きく掲げていきたい。

4 閉会

事務局 : 以上で本日の策定委員会を終了させていただく。